

## 観光で稼ぐ！ための手引書 —観光消費の拡大と域内経済への波及をめざして—

北海道経済部観光局 主任 小林涼太郎

### 1. はじめに～なぜ観光に力を入れるのか～

全国的に少子高齢化、人口減少という課題に対する対策の一つとして、観光が注目されています。観光は外から「人」と「財」をもたらし、新たな取り組み、消費が生まれ、地域の経済活性化に結びつく可能性があるからです。

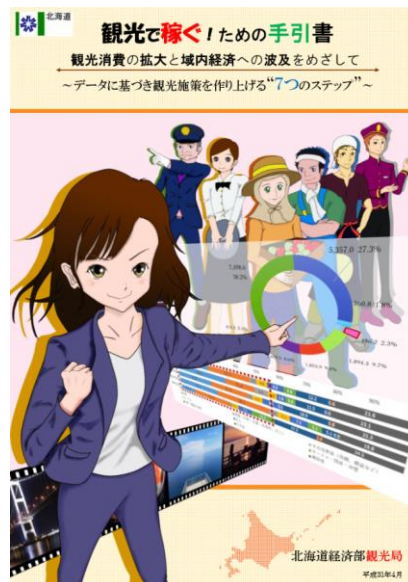
道内においても観光施策に積極的な地域が多いことから、道としてこの動きを後押しすることにより、北海道全体の経済活性化に繋がると考え、この度、「観光で稼ぐ！ための手引書」を作成しました。この手引書は、地域全体で観光施策を考え、事業を策定するところまでの流れを体系化したもので、地域それぞれで担当者の知識や経験等に依存しない施策展開が図られることを狙ったものです。

### 2. 地域に「観光で稼ぐ」意識の醸成を

多くの観光客に来ていただいても、ただ景色を見るだけで帰られてしまっただけでは、地域の経済活性化には繋がりません。観光客のみなさんに地域でより多くのお金を使ってもらうためには、できるだけ広く地域を周遊し、旬の地物を飲食し、長く滞在し、楽しんで満足して帰っていただくことが必要です。さらには旅の楽しさを SNS で発信するなど次に繋げてもらうことまで考えた仕掛けが重要です。そのためには、行政だけでなく、観光協会等の団体はもちろんの事、宿泊、飲食、交通等の観光関係事業者、おみやげ等の製造業、一次産業の事業者といった地域に存在するあらゆる産業の関係者全員が、「観光で稼ぐ」という意識で連携し、知恵を出し合って取り組むことが必要です。

### 3. 大きな課題の存在

しかしながら、1次産業が中心の本道においては、観光振興を地域一体となって実施することが難しいという声も多く聞かれます。原因の一つに、「観光で稼ぐ」ことの説得力・根拠が弱いことが考えられます。連携する相手のほとんどは民間事業者であり、限られた資源の中で利益を追求しているわけですから、メリットを求めるのは当然です。一方で、観光客を識別し、消費したお金がどのように動いているのかを追うことは非常に困難なことから、観光施策のメリットを示し、説得することが難しいという実情がありました。



北海道経済部観光局 HP より

### 4. マーケティングの導入による解決策

そこで必要なのが、民間企業では広く実践されているマーケティングを観光において導入することです。更に、観光客の消費が地域の各産業にどのような効果を与えているのかを「見える化」することです。

本取り組みでは、地域が考える施策（プロダクトアウト）と、観光客が求めているニーズ（マーケットイン）をデータ化し擦り合わせ、施策効果を高めるためのマーケティング手法を手引書で解説しています。

また、観光客の消費が地域の各産業に与える影響を市町村単位で簡易的に分析できるツールを開発して、提供し、全道各地域での活用を促しています。

観光地としても有名な北海道だからこそ、このチャンスをしっかり地域経済の活性化に繋げるため、本取り組みが全道に広がるよう、今後とも取り組んでまいります。

末尾になりますが、本取り組みにご協力いただいた、モデル地域の室蘭市、名寄市、余市町、羽幌町の皆様、有識者の皆様、事業関係者の皆様に重ねてお礼申し上げます。

・北海道経済部観光局（観光で稼ぐ！ための手引書ツールダウンロード関連）

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/kasegu.htm>